

体育祭のダンスにおける異性愛の構築

明治学院大学 合場敬子

1. 目的

この研究では、高校生が自ら制作した体育祭での応援団のダンスを言説と捉えて分析した。高校の体育祭で実施されているダンスに関する日本語文献の多くは、生徒に創作させる場合の実施方法や指導方法に関するものであった。英語圏においても、日本の高校生の年代に近い男女のダンスを異性愛の視点から分析したものは非常に少ない。例外としては、Pasco (2012) がアメリカの高校で実施されているダンスパーティでの生徒たちの行動を観察し、異性愛を強調した曲を使い、生徒たちのダンスの動きに異性愛を喚起する動きがあることを指摘している。本研究は Pasco (2012) の視点を援用し、高校生が制作した応援団のダンスにどのような男性性 / 女性性が表現されているのか、また異性愛がどのように表現されているのかについて考察した。

2. 方法

2018 年に実施された松風高校（仮名）の有志の生徒（1 年から 3 年）による、体育祭での 3 つの応援団（青、黄色、赤組）のダンスを録画し、時間分析と内容分析の 2 つの手法を用いた。時間分析では、1 全員で動く動き、2 ペアの動き、3 女子が注目される動き、4 男子が注目される動き、5 一部の男女が注目される動き、の形態がどれくらいの時間行われているかを各組ごとに分析した。内容分析は、1 から 5 のそれぞれの動きにおいて、①男女の身体の提示の仕方とそれによって男女の身体がどのようなものとして表現されているか、②男女の性的欲求の表現の有無、③暴力的表現の有無について分析し、加えて 6 ダンスで使用された音楽の歌詞、7 女子の衣装、8 男子の衣装、9 全体としてどのような意味が構築されているのかを考察した。

3. 結果

時間分析では、3 つの組とも、「全員で動く動き」と「ペアの動き」に多くの時間を割いていることが分かった。内容分析では、3 つの組とも程度は異なるが、男女の身体を衣装や動きで、異なるものとして表現している部分が明らかになった。さらに、女子の身体が可愛いもの、華やかなものとして表現される一方で、男子の身体は、かっこよく、躍動的、力強く、俊敏で女性をリードできる身体として表現されていた。3 つの組とも男女を基本とするペアの動きがあり、男女の親密さが表現されていたが、青組は男女の友情、黄色と赤組が異性愛規範 (heteronormativity) を構築するという違いが見られた。異性愛規範とは、社会のだれもが異性愛である前提と、すべての社会制度は異性愛的な男性 / 女性という社会関係によって構成されているという認識を意味し (Nagel, 2003)、結果として、異性愛以外の性的指向はすべて逸脱とされる (Bloodsworth-Lugo, 2006)。

4. 結論

異性愛規範の言説により、非異性愛の生徒は自分の性的指向と親和的ではない表現を強いられることになり、応援団のダンスに参加することを断念することが予想される。性的マイノリティの生徒たちが、応援団のダンスに参加できるようにするためには、他者の性自認や性的指向を尊重するための、「性の多様性」の学びの機会の保障（渡辺，2017, p.61）が必要とされている。松風高校の応援団のダンスでは、特定の男女身体の表現や異性愛規範に当てはまらない表現が認められたので、これを「性の多様性」の学びの機会」として、性自認や性的指向に関わらず、すべての生徒が楽しみながら参加できるダンスを構想するような課題を生徒に提供することが考えられる。